

好評開催

看取りケア研修実践編

大阪会場

看取りケアの体制整備と利用者の安らかな旅たちにむけて

終末期の利用者が多くなる中、看取りケアのニーズが施設及び在宅で高まっています。

制度改正でも看取りケア加算が強化されるなど、国も看取りケアの後押しをしており、施設系サービスを中心に看取りケアを始める事業所も増えています。

しかし、事業所によって、看取りケアの取り組みには大きな差があるようです。利用者の容態の急変があり、家族の思いも大きく揺れ動く終末期において、適切なケアを行うには、事業者の看取りケアの考え方、事業所内の体制作り、医療連携の確立や家族との協力体制等様々な取り組みが必要です。そして、利用者や家族に対する具体的な支援の方法や亡くなった後のエンゼルケアやグリーフケアに至るまで、どの部分もデリケートで必要不可欠なプロセスです。そのため、それらに対する知識と技術はもちろんのこと看取りケアに対するチームや個々のスタッフの関わる姿勢がとても重要です。また、職員やチームを支える組織的なサポート体制も欠かすことはできません。それぞれのプロセスに必要とされる知識、技術、心のあり方までを実践の取り組みを通して理解する研修会に致しました。

利用者が安らかに旅立ち、そしてご家族が悔いを残さないよう、更には職員にとっても達成感とともに介護の仕事の素晴らしさと働きがい気付いていただけることも本研修の大切な目的としております。是非この機会に本研修をご受講いただき、より良い看取りケアの実践の一助にさせていただけることを心より願っております。

受講生の声：●全スタッフに受けさせたいと思いました。 ●グリーフケアについて良くわかりました。 ●看取りの実際の体制作りやケアの内容がイメージできた。 ●事例を通してのお話し勉強になりました。 ●個人の価値観を押し付けていたことを反省。 ●連携が本当に大切なことに気付いた。看取りについて考える貴重な機会に感謝です。 ●看取りの本質を学ぶことができました。 ●夜勤が怖かったですが、なんとか頑張れそうです。 ●現場からの目線で事例を交えての講義とても良かったです。 ●心を込めて最期のステージをお手伝いしたいと思いました。 ●一日一日を大切にしたい。

3/29 9:30~16:30 受講費 10,800円

ネット配信加入者は半額で受講可

①	②	③	④	⑤
① 看取りケアの基本	①看取りケアとは②看取りケアの考え方			
② 看取りケアの体制作り	①事業所内の体制作り②医療等との連携③家族との協力体制			
③ 看取りケアの支援の実際	①利用者への具体的な支援②家族への具体的な支援			
④ エンゼルケア及びグリーフケア	①エンゼルケア②職員への支援③家族への支援			
⑤ 事例を通じた実践の理解	①事例紹介			

講師紹介 田島利子先生 介護福祉士・介護支援専門員 グループホームあんずの家ホーム長

日本でもモデル的なグループホームの礎をつくったグループホーム管理者。現場の業務に精通したスペシャリストで、介護現場の実情を踏まえた実践的な講義が好評。看取りが難しいグループホームにおいて、利用者や家族の要望に応え、看取りケアを行っている。病院にて余命が数日といわれた利用者や、ガン等グループホームでは限界があるケースでも、外部及び内部のスタッフが一丸となって支援し、ホームで最期までそのひとらしい生活を実現できるように尽力。外部関係者もその実態に驚きを隠さない。入居者や家族の心にも配慮し、亡くなった後も四十九日まで入居を募らないなど、看取りケアの姿勢も徹底している日本でも数少ない実践者。

申込方法：電話、ファックスにて受付いたします。締切：全て先着順になります（70名）

問合せ先（主催）：お茶の水ケアサービス学院 事務局 TEL：03-3863-4000

受講対象：介護従事者等どなたでも受講可能

研修会場：国労大阪会館 大阪市北区錦町2-2 天満駅より徒歩5分

ファックス 03-3863-4006

お名前	フリガナ	事業所名	ネット配信の加入の有無	有・無
住所	(〒 -) (事業所・自宅)			
TEL	FAX	e-mail		

※お申し込み後（申込日を1日目とします）、7日目以降のキャンセルについては、お振込前でも受講料の半額がかかります。

また、申込日に拘らず3/15以降のキャンセルについては全額のキャンセル料がかかりますのでご注意ください。

※キャンセルのご連絡がない場合は、キャンセル扱いにはなりませんのでご注意ください。